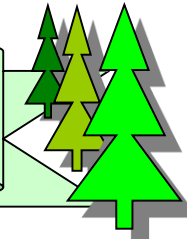


# 街路樹

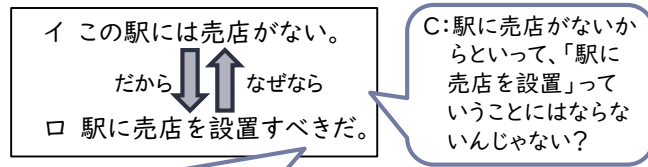
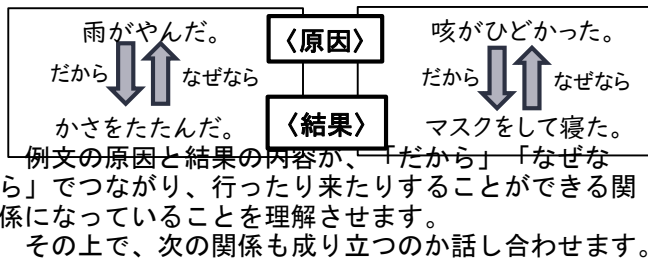


## 「国語科の授業改善の視点と実践例紹介」

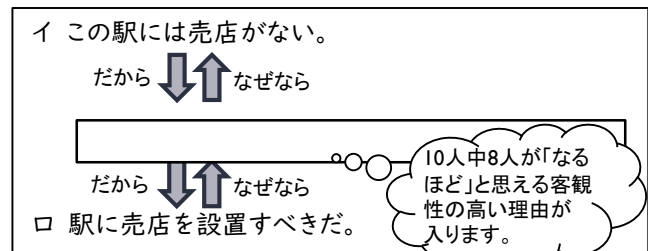
## SSW(スクールソーシャルワーカー)の活用について

### 情報と情報との関係を整理するための一方策

〔知識及び技能〕の「情報と情報との関係」を、関係図を用いてシンプルに捉えさせる学習です。次の因果関係の図を提示します。



T: IとCだけのつながりだけでは、全員が納得できるものではないよね。これを「論理の飛躍」と言います。IとCの間に全員が納得できる理由を考えてみよう。



因果関係を整理する力は、文章を論理的に読む力、書く力につながります。小・中どちらでも取り組めるトレーニングです。ぜひ例題を考え、授業の中で取り入れてみてはいかがでしょうか。

今年度、いわき市におけるSSWは、以下のような配置で担当地区を分けて8人で活動しています。

配置	担当地区	ワーカー数	合計
市配置	平方部・小名浜方部	4人	8人
県配置	市配置以外の方部及び県立学校	4人	

近年、いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など、児童生徒の問題行動等については、極めて憂慮すべき状況にあり、教育上の大きな課題を抱える学校が増えている傾向が見受けられます。

SSWは、これらの課題に対し、社会福祉制度をはじめとする情報や知識、並びに専門的な援助技術を用いて「問題を抱えている」児童生徒と家族や学校、教職員への支援を行う人材です。経済面や福祉面等の相談を切り口として家庭に支援していきます。

令和4年度、各校から相談で特に多かったのは、次の内容でした。

- 家庭環境の問題
  - ・養育不全家庭や家族間の問題(ヤングケアラー等)
- 貧困の問題
  - ・集金(教材費や給食費等)の滞納

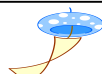
このような問題の背景には、児童生徒が置かれた様々な環境が複雑に絡み合っています。

SSWは、関係機関と連携・調整等をしたり、児童生徒が置かれた環境の問題に働き掛けたりしながら問題解決の一助となるよう活動しています。これからも学校と連携を図りながら、寄り添った支援を行っていきます。

学校だけで解決することの難しい問題や日頃の心配なこと、困ったことなどがあれば、まずは管理職から教育支援室へご相談ください。



## 「児童生徒理解教育講座より」



8月2日(水)に、「児童生徒理解教育講座」が実施されました。はじめに、「自己有用感を育む学習指導」と題して、いわき市教育委員会学力向上アドバイザー永山誠一先生・林和樹先生による、講義・演習が行われました。全国学力・学習状況調査や、ふくしま学力調査の結果から、各学校・学級の特徴を「学校カルテ」としてまとめたうちの一つを例に挙げながら、その見方や分析の仕方を学びました。課題ばかりでなく、成果に目を向ける「成果ファースト」の言葉に勇気づけられ、2学期からの授業や学校生活を見据える受講者が多く見られました。



次に、「子どもの自己有用感を高める関わりについて～I-SUSを活用して～」と題して、ふくしま子どもの心のケアセンター専門員能渡綾菜先生による、講義・演習が行われました。いわき市の児童生徒を対象としたアンケートI-SUS(アイサス)の結果をもとに、学力・心理的特徴・非認知能力の実態を明らかにしながら進められました。自己有用感と学力との相関が数値で示されるとともに、自己有用感を高める糸口を探る手法を、具体的にご紹介いただきました。



各調査のデータは、各学校に届いております。そこから見取ることができる特徴に応じた授業や指導が各教室で展開され、児童生徒が輝く姿が一人でも多く見られることを願いたいものです。